

食育、朝食欠食児童の

現状と対応について

問 食育基本法は、子供から大人まで食に関する知識と選ぶ力を身につけ、国民が健全な食生活をおくることを目標に、昨年7月に施行された。

子供への食の指導を担う栄養教諭の制度も始まり、幼いときから日常生活の中で、自然のうちに食の大切さを知り、体だけではなく心の健康を育むこと、何が必要で何が体に安全なのか、これを教えるのが食育の基本と言われている。

食育こそ健全な社会を作る土台になっている。

最近、不規則な食生活から、個食や偏食などで、朝食を食べない欠食児童が増え、肥満や生活習慣病が増加し、教室内では落ち着きがなく、暴力的で切れやすく、心の発達に大きな影響を与えていることから幕別町においても食育の教育が始まっている。

朝食欠食児童の現状と対

応は。

また、栄養教諭の配置は。

教育長

平成17年8月に

幕別町PTA連合会が実施したアンケート調査によると、朝食欠食児童は、小学2年生が7%、6年生が6%、中学2年生が4%と報告されている。

この数字は全国平均や全道平均と比較すると低い率である。



給食の様子



朝食を取らない理由は、小学校では「食欲がない」が55%、「時間がなくて」が45%、中学校では「食欲がない」が33%、「時間がなくて」が66%となっている。

裕を持つなど指導し、家庭には学校だよりや保健だよりを通じて対応している。栄養教諭の配置については、現在、給食センターの栄養士3名のうち、17年度に1名、18年度中に2名が免許を取得する予定である。栄養教諭の配置先については、北海道教育委員会と協議するが、本町においては、給食センターに配置し、各学校へ栄養指導に向く方式の方が、より活動しやすいと考える。

薬物乱用防止 キャラバンカーの活用について

問 薬物がインターネットで簡単に購入できるとき、誰が薬物に手を染めても不思議でない社会、最近の新聞によると錠剤麻薬の押収量と検挙者数が報道されていた。

どちらも2000年から5年間で、6倍に急増している。検挙者は圧倒的に青少年が多い。

薬物に手を染めることがないように各学校にキャラ



バンカーを導入して、薬物の怖さ、恐ろしさを体験学習として取り入れては。また、教育現場での取り組みと活用の考えは。

教育長 全国で8台ある

キャラバンカーは、平成14年度に幕別高校、平成15年度に幕別中学校、札内中学校を訪れ、生徒への指導・啓発を行っている。

北海道では札幌を拠点に

4月から12月にかけて道内を巡回しており、地域をあげて子どもたちを健全に育てていくために、児童生徒はもとより、保護者に対する啓発を含め、学校、児童生徒健全育成推進委員会等でのその活用について協議したい。

取り組みについては、学習指導要領でも、小学校、中学校とも、保健体育や特別活動の時間に、薬物の健康への影響、依存性・危険性の高さについて指導に取り組んでいる。札内東中学校では、総合的な学習の時間を活用し、帯広警察署生活安全課の担当者を講師に、「薬物乱用防止教室」を開催している。

幕別中学校では、保健室の前に薬物の模型及び、薬害による実態のパネルを展示し、生徒に対し危険性を喚起している。